

4月27日は松下幸之助さんの命日でした。亡くなる数日前「喉に管を入れるから辛抱してください」と声をかけた主治医に、振り絞るような声で「いやいや、お願いするのは私です」と答え、それが最期の言葉だったそうです。苦しい病の床にありながらも相手を思いやる。改めて「経営の神様」の偉大さに心を打たれます。

低調なカープ 先を見据えた戦略を *Carp*

桜の花が散り葉桜の時期となりました。今年の桜は例年より開花が遅れ、入学式に合わせたかのように満開になった桜を背に、新入生たちは素敵な写真が撮れたのではないのでしょうか。

この先は春の心地よさを満喫する間もなく一気に夏の暑さとなりそうです。今から体を暑さに慣らすため、水分補給や適度な運動を心がけましょう。

さて、我らがカープ。

新井カープ2年目のシーズンが始まった。

4/14 逆転負けで今季2度目の同一カード3連敗を喫し、最下位転落、借金は今季最多の4となった。開幕直後、新戦力のレイノルズ選手とシャイナー選手が揃って早々に故障離脱してしまい、完封負けの試合も多い。今季も点を取るという部分に関して苦しんでおり、投手陣が辛抱して頑張るという展開になっている。1試合平均2.2得点と低調な打線、選手個々の奮起を期待し、徐々にでも状態を上げていかねばゲーム差が開く一方だ。

しかしながらまだまだ序盤、新井監督も先を見据えた戦い方をしていくだろう。今年も開幕からMAXな状態で戦うというよりは、若手にもチャンスを与え、戦力の底上げをしながら、チーム全体でシーズン中盤から後半にかけて最高の状態に持っていくイメージで行ってほしい。

打線は、打撃練習を見る限り若い選手たちも良い打球を飛ばしていた。左膝の故障で出遅れている末包選手が一軍に上がってきて主軸で機能しはじめれば、打線の勢いも変わると思う。今のカープは先発陣に安定感があり、投手力で勝つという戦い方になっているので、打撃面では先制点にこだわらなければならない。早い段階でのバントや、リードしている展開になればヒットエンドランの仕掛けもやりやすくなり、カープらしい戦い方ができるはずだ。いかに1点を先制するかを考えて戦うことが重要だ。

また、ここまで菊池選手が8番で出場する試合もあったが、個人的には少しもったいない気がする。「何をしてくるかわからない」という駆け引きが菊池選手の持ち味だと思う。2番や6番であれば普通に打つのか、ヒットエンドランなのか、バントなのか、など色々な選択肢があり、相手からすれば嫌なところだろう。まだ本調子ではない坂倉選手が中軸を打てる状態になるまでは8番を打たせても良い。調子が悪い中でも怖さは十分にあるので、例えば2死から勝負を避けられ9番に回れば、次のイニングは1番から攻撃ができる。

まず各球団と一回り対戦し、そこからどのように対応していくのか、注目していきたい。

頑張れカープ！！

エルフォルクはあなたをそしてカープを全力応援致します！



裏面もご覧ください。